



平成 24 年 11 月 16 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（10月） **NEW**
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（10月） **NEW**
- 気になる話題：ノロウイルス感染を原因とする集団発生が多発しています **NEW**



(調査週) 平成 24 年 第 45 週 11 月 5 日 (月) ~ 11 月 11 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	8.31	↑↑	↑↑	↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.86	→	→~↓	→~↑	↑↑
3	水痘	0.80	↑	↑	↑	↑↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.54	→	→~↑	→	→~↓
5	手足口病	0.23	→	→	↓	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は160例で、前週報告の100例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③RSウイルス感染症、④A群溶連菌咽頭炎、⑤手足口病の順。感染性胃腸炎の報告数（60→109例）は、急増。手足口病の報告数（7例）は、増加。水痘の報告数（12例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（10例）も、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（11例）は、ほぼ横ばい。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC

および郡山HC両管内共になかった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あった。また、奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が各々順に、1例、2例の計3例（各々1～4歳児、5～9歳児、10～14歳児）報告された。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、128例から186例と5割増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、89例から142例と増加し、水痘は、11例から14例と増加した。眼科定点からの報告は、桜井保健所より、流行性角結膜炎1例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県南部地区概況 報告数（第44週→第45週）は22例→53例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（19例→40例）、②RSウイルス感染症（0例→6例）、③突発性発疹（1例→3例）、④水痘（0例→2例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（1例→1例）、⑥手足口病（0例→1例）であった。（柳生 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成24年10月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、10月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成24年10月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
インフルエンザ	AH3	2			上気道炎(2)
エコー	7		1		エンテロウイルス感染症の疑(1)
ノロ	GI		1		感染性胃腸炎(1)

（保健環境研究センター 記）

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（10月）】

平成24年10月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名\報告月	10月		前月（9月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	9	1.00	6	0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	4	0.44	3	0.33
尖圭コンジローマ	2	0.22	2	0.22
淋菌感染症	5	0.56	7	0.78

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名\報告月	10月		前月（9月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	3.83	47	7.83
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	1.00	6	1.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

ノロウイルス感染を原因とする

集団発生が多発しています

例年、冬季にノロウイルスを原因とする急性下痢症が流行します。本年は**少しだけ早く、既に集団発生がありました**ので注意喚起として、それらの事例を紹介し、予防法等についてお話いたします。

下表は郡山保健所管内の A 保育園、葛城管内の B 保育園で発生した集団感染症と、葛城管内の C 小学校と奈良市管内の D 飲食店での食事を介し発生した疑いのある集団発生の概要をお示しいたします。保健環境研究センターが原因究明のための検査を行った、4事例で確認されている患者数は合わせて 154 名です。現在、一部ですが遺伝子解析が終了し GII/4 型が主体のようです。

	保健所管内	発症者数	初発日	ピーク
A 保育園	郡山	46 名 (職員 4 名を含む)	10/29	11/2-3
B 保育園	葛城	31 名 (職員 2 名を含む)	11/7	11/9
C 小学校	葛城	58 名 (調理従事者 1 名を含む)	11/3	11/4-5
D 飲食店	奈良市	19 名	11/2	?

11 月 13 日現在

ノロウイルス感染症について

ノロウイルス感染症の特徴

- ・ 冬季に流行、主な症状は、嘔吐、下痢、微熱など。
- ・ 患者年齢層は生後 1 歳から学童児(保育園、小学校)、老人層(福祉施設など)などで多く発生します。
- ・ 二枚貝(牡蠣)の生の喫食には注意(十分に加熱する)が必要ですが、患者の嘔吐物からの二次感染(空気中に飛散)も稀なことではありません。
- ・ ごく少量(10~100 個粒子程度)を摂取するだけで発症します(感染力は強い)。



感染経路と注意点

患者の便中のウイルスがなんらかの形で、他のヒトの口に入って感染します。症状が治まっても長いヒトで**4 週間程度**は便中にウイルスがいますので、兄弟での入浴、バスタオルの共有は避けてください。

予防

- ・ 現在、このウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありません。
- ・ 日頃から、食事前やトイレの後には、**石鹸を使ってしっかり手を洗ってください**。
- ・ ウイルスは環境中でも安定なので汚染された水や食物を介しても感染します。下痢便、嘔吐物の消毒には、市販の**塩素系漂白剤**(通常は 5%程度:キッチンハイターなどの次亜塩素酸ナトリウム)なら 50 倍から 100 倍(1000ppm)に水道水で薄めて 10 分程度浸すと有効です。**処理には必ず手袋、マスクを着用**することです。また、調理器具、衣類、タオルなどは熱湯(85 度以上)で 1 分以上の加熱が有効です。

ノロウイルスに関する Q&A

<http://www.nhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

(感染症情報センター 記)